

# ドイツ語イントネーションにおける 低上昇調アクセントについて<sup>1)</sup>

— ドイツ語母語話者と日本人ドイツ語上級者の比較 —

Zum Tief-Steigenden Akzent in der deutschen Intonation

— Ein Vergleich zwischen Muttersprachlern und fortgeschrittenen  
japanischen Lernern des Deutschen —

成 田 克 史

Katsufumi NARITA

## 1. はじめに

自然な音声コミュニケーションでは、連続する分節音を適切に調音するだけでなく、適切なイントネーションを付けて話すことが求められる。日本語母語話者がドイツ語を話すと、ドイツ語母語話者の側から、一語一語はわかるが、何を言おうとしているのかわからないという反応が返されることが多いといわれる。正しい語彙、正しい文法を用いても理解されないのは、イントネーションが不適切であるということもその原因の一つであろう。それにより、話し手の発話意図、感情、態度などが聞き手に的確に伝わらないために、意思疎通に支障を来たすものと考えられる。

本研究では、日本語のように語の高低アクセントによって制約を受けることのないドイツ語発話において、イントネーションがどのようなピッチ曲線として現れるかを観察し、ドイツ語に高い頻度で現われるピッチパターンを見出すとともに、日本語を母語とするドイツ語話者のイントネーションと比較し、違いを明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の意義

音の連続である語とそのまとまりである文が、主に知的意味の伝達を担う一方で、イントネーションは、話し手が一定の文脈、一定の発話状況の中で聞き手に何を伝えようとするか、すなわち話し手の発話意図を反映するとともに、発話時の話し手の感情や聞き手に対する態度（尊敬、軽蔑など）、発話内容に対する気持ち（関心、無関心など）をもよく反映する。話し手がどのような発話意図や心的態度で話そうとしているかが不鮮明ならば、聞き手は相手の言うことをどのように受け取ればよいかかわからず、困惑することになる。その意味で、音の連続を正しく調音することと並んで、適切なイントネーションを用いることは、音声言語による情報

---

1) 本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（課題番号 24520422、研究課題「ドイツ語イントネーションの典型性の研究—日本人ドイツ語上級者との比較—」）の助成を受けて遂行するものである。

伝達を成立させるための重要な要件であるといえる。

他の音声現象と同様に、イントネーションにも各言語に特有の特徴がある。母語話者同士の談話においてコミュニケーション上の問題は起こりにくい。しかし、使用する言語が話し手にとって外国語である場合、話し手が産出するイントネーションが、母語話者である聞き手の期待に合致せず、聞き手が脈絡をつかむことに困難を覚えたり、極端な場合には、最初から聞き手の母語とは認識されず、コミュニケーションが成立しないという事態も生じうる<sup>2)</sup>。円滑にコミュニケーションを遂行するために、どのような場合にどのようなイントネーションを用いるべきかを探ることには音声学的な意義がある。

特にストレスアクセントを持つ言語では、イントネーションが日本語のように語のピッチアクセントに制約されることなく、ストレスアクセントからは独立した動きを見せる点に注目できる。そのような言語のうち、本研究ではドイツ語を対象とし、そこに頻出するピッチパターンがどのようなものかを明らかにする。

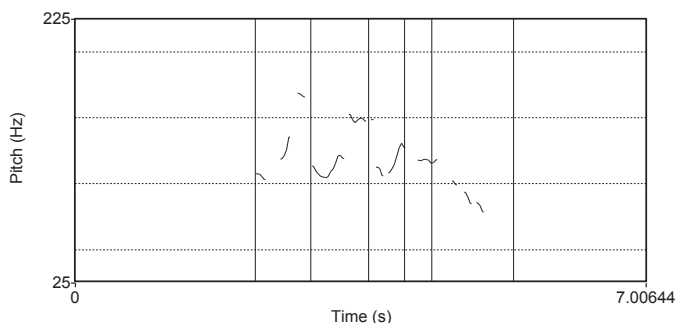


図1. ドイツ語母語話者が読み上げた文 | *In zwanzig | Minuten | beginnt | schon | der Unterricht |* のピッチ曲線 ( | は、図中の垂直線に対応)。最初の3区間に強く右傾したS字型パターンが観察される。第1区間の3本のピッチ曲線のうち、2本目と3本目が *zwanzig* の有声部分。高声はストレスのある *zwan-* ではなく、*-zig* の部分に与えられていることがわかる。(成田 2007, 47)

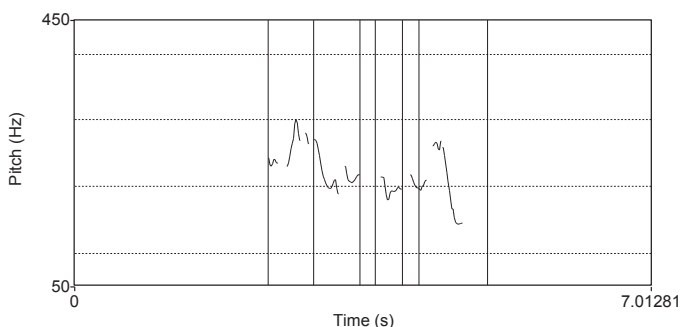


図2. 別のドイツ語母語話者による同じ文のイントネーション。発話の第2区間のピッチ曲線前半が *Minu-*、後半が *-ten* の有声部分を表す。ストレスのある *-nu-* ではなく、*Mi-* の部分が高く発音されていることがわかる。(成田 2007, 47)

2) 筆者の個人的経験だが、以前、日本人学生が朗読したドイツ語文章の録音をドイツ人に聞かせ、感想を尋ねたところ、「ドイツ語だとは思わなかった」という反応があった。

これまでに、ドイツ語文にはいくつかの典型的なピッチパターンが現れることが報告されている。例えば Delattre (1965, 25-26) は強く右に傾斜した S 字型のパターンの存在を指摘し、Féry (1988, 56) はふたつの高い音調の間でピッチが下降しない山高帽型のパターンの存在を指摘、また、Kohler (2005, 13-14) は確定した事実などの陳述に生じるピッチピークの早まりなどを指摘している。このようなピッチパターンを観察する中で注目すべきは、語または句のストレスを有する音節が必ずしも高く発音されるわけではないという点である。図 1 はドイツ語母語話者による *In zwanzig Minuten beginnt schon der Unterricht* (20分後にはもう授業が始まる) という文のピッチ曲線である (成田 2007, 47)。ここでは最初の 3 区間に強く右傾した S 字型のパターンが顕著であるが、*zwanzig Minuten* という句の中心となる *zwanzig* の語のストレスは *zwan-* にあるにもかかわらず、高声はその音節ではなく、ストレスのない語末音節 *-zig* に現われている。図 2 は別のドイツ語母語話者による同じ文のピッチ曲線である (成田 2007, 47)。*zwanzig* のピッチパターンに関しては図 1 と同様であるが、後続の *Minuten* において、ストレスがあるのは *-nu-* であるにもかかわらず、高く発音されるのは *Mi-* の部分である。このように、ドイツ語ではピッチ曲線が語のストレスからは独立し、自律的に振舞うように見える。語レベルのストレスアクセントとピッチ曲線の高低が必ずしも連動することなしに、どのようにイントネーションが実現されているのかという問題が解明されなければならない。

### 3. 研究の目的と方法

本研究では、上述のこれまでに報告されているドイツ語文に現われる典型的なピッチパターンのうち、強く右に傾斜した S 字型のパターンに着目し、その出現の様子を確認した上で、日本語を母語とするドイツ語上級者 (以下、日本人ドイツ語上級者という) のドイツ語文のイントネーションとの共通点と相違点を探る。

本研究に用いる音声資料は、2014年2月にドイツで、また5月から7月にかけて日本で収録した朗読音声である<sup>3)</sup>。朗読用のテキストには、1) ドイツ語圏の日常生活で誰もが聞きやすいような文章であること、2) 語彙的・統語的に平易な文から成ること、3) 内容に特殊な偏りのないことを旨として、ドイツ語初級教科書『答えはドイツ語』(成田 2005) のために筆者が書きおろした第11課と第12課の読章を用いた。これらの文章がドイツ語母語話者の校閲を受けていることは言うまでもない。そのうち、本研究では第11課 *Da fiel ihr ein Mann am Fenster auf, der ihr bekannt vorkam* (その時、見覚えのある窓際の男が彼女の目に留まった) の冒頭の一文 *An einem Dienstagnachmittag ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* (ある火曜日の午後、ズィルケはヴィヴィアーネと一緒にクーアフェルステンダムへ行った) の録音音声を取り上げる。読章冒頭の文を選んだのは、文脈の影響を受けない中立的な発話が得られ、比較的単純に分析を行うことが期待できるという理由からである。音声提供者はドイツ語母語話者20名 (女性15名、男性5名)、日本人ドイツ語上級者4名 (女性2名、男性2名) である。ドイツ語母語話者は自己申告によれば全員が標準ドイツ語 (Standarddeutsch) 話者であ

3) 音声収録のために防音室及び録音機材の使用を許可くださったコンスタンツ大学音声学教室 Bettina Braun 教授、音声提供者の募集に尽力いただいた浅野友紀氏、音声を提供していただいた諸氏にこの場を借りて心からの感謝の意を表したい。

る。一部には方言も話す者と答えた者もあり、その内訳はアレマン方言6名、ラインラント方言2名、フランケン方言、ブランデンブルク方言、ルール方言各1名であるが、録音時の朗読音声に、明らかな方言的特徴を示す者はいなかった。日本人ドイツ語上級者はいずれも大学で初心者向けのドイツ語や専門としてのドイツ語学文学の教育に携わる教員である。録音はいずれも防音室内で、PCM方式によって行った<sup>4)</sup>。録音までの手順は、まず次の指示 1. Lesen Sie die Geschichte für einen unbestimmten Kreis von Zuhörern vor! Bitte lesen Sie gut verständlich und interessant! 2. Wenn Sie etwas falsch gelesen haben, lesen Sie den entsprechenden Absatz bitte noch einmal von vorne! (1. この話を不特定の聴取者集団に対して、わかりやすく、面白く読んでください。2. 読み間違えたら、その段落の最初から読み直してください) を読ませた後、テキストを黙読して内容を把握させ、次に音読練習を兼ねて全テキストを通して試し録りを行い、最後に正式の録音を行った。長い段落の途中で読み間違えた場合は、(段落の最初から読み直す必要はなく) 読み間違えた文の二つ乃至三つ前の文から読み直すよう、口頭で指示した。(本稿で扱うのはテキスト冒頭の文であるため、読み直す場合はこの文からとなる。)

#### 4. ドイツ語母語話者のイントネーションの分析と結果

録音した音声は音声分析用プログラム Praat を用いて解析し、得られたピッチ曲線を、音声そのもの並びにスペクトログラムと対比しつつ観察した。その結果、ドイツ語母語話者の多くが、分析対象とした文を次のように二つのイントネーション句に分割して朗読していると推定された：{An einem Dienstagnachmittag} {ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendam}. *Dienstagnachmittag* と *ging* の間におかれた休止と、同所でピッチが急下降していることから、そのように推定できる。これに従って、上記文を二つのイントネーション句に分けて分析することとする。

先行するイントネーション句に関しては、女性のドイツ語母語話者15名のうち、12名の発話がきわめてよく似たピッチ曲線を示すことが確認された。残る3名の発話も類似する部分が多いが、1名は *Dienstagnachmittag* の *Dienstag-* と *-mittag* を高く、*-nach-* を低く、1名は *Dienstagnach-* を低く、*-mittag* を高く、1名は *Dienstagnach-* を高く、*-mittag* を低く読み上げる点が異なっていた。男性のドイツ語母語話者4名の中で、上記女性12名と同等のピッチ曲線を示したのは1名だけであった。残る3名のうち1名は *Dienstagnachmittag* の *Diens-* と *-mit-* を高く、*-tagnach-* と *-tag* を低く、1名は *Dienstag-* を高く、*-nachmittag* を低く、1名は *Dienstagnach-* を高く、*-mittag* を低く読み上げる点が異なっていた。上記女性12名と同等のピッチ曲線を示した男性1名を分析に加えることは可能であるが、男声と女声ではピッチレンジが異なり、ピッチ曲線を単純に重ね合わせて示すことが困難であるため、この男性を敢えて加えず、上記女性12名のピッチ曲線のみを図3左図に示すこととする。話者によって発話速度が異なるため、図の作成に当たっては、*Dienstagnachmittag* の語中の [n] と [s] の境界から語末の [a:] と [k] の境界までの時間長を1として、[n] と [s] の境界から0.6 遡った時点から後のピッチ曲線を表示さ

4) サンプリング周波数 44.1 kHz, 量子化ビット数 16 ビットで録音し、原則として wav 形式で保存したが、1名の音声については設定の誤りから、MP3 形式で保存された。ただし、ピッチ分析をするための音声の品質には問題がない。

せた。よって各話者の調音上の [n] と [s] の境界は図3左図の左端から 3/8 の位置で一致しており、図の右端が語末の [a:] と [k] の境界となっている。これによって一部の話者の冒頭部分が図には反映されないという問題が生じたが、文頭はいずれも低く、概ね平坦であるため、主要なピッチ曲線の観察には影響しないと考えられる。

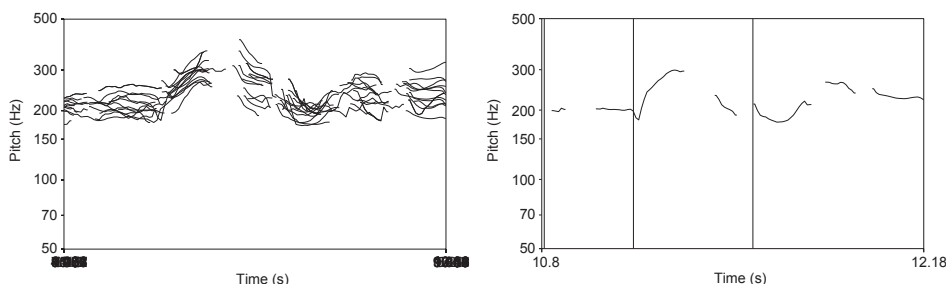


図3. ドイツ語を母語とする12名の女性話者が読み上げた文 *An einem Dienstagnachmittag ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* の文頭部分 *An einem Dienstagnachmittag* のピッチ曲線 (左図) とそのうちの1名が読み上げた同部分のピッチ曲線 (右図)。右図では垂直線により | *an einem* | *Dienstag-* | *-nachmittag* の境界を示す。音調は %L (句頭), H\*L (*DIENStag-*), L\*H (*-NACHmittag*), 0% (句末) であると考えられる (大文字によりストレスが置かれる音節を示す; 以下同様)。L\*H のアクセントが置かれる *-nach-* の位置に強く右傾した S 字型ピッチパターンが現われている。

図3右図はそのうちの1名が読み上げた同部分のピッチ曲線である。右図では垂直線により | *an einem* | *Dienstag-* | *-nachmittag* の境界を示す。Peters (2014, 32-35) に概説された ToDI (Transcription of Dutch Intonation<sup>5)</sup>) によってこの1名の音調を表記すれば, %L (句頭), H\*L (*DIENStag-*), L\*H (*-NACHmittag*), 0% (句末) となろう (大文字により強勢が置かれる音節を示す; 以下同様)。ただし, 左図の *-nachmittag* のピッチ曲線は末尾に近づくに従って, 上方に分散していくように見えるため, 12名の話者の中には句末に H% の音調を充てた者もいたと考えられる。句末の音調には, このように違いがあると思われるが, その他の点で左図に示された女性12名のピッチ曲線はよく似通っており, これがこの句を読み上げる時に最も高い頻度で用いられるイントネーションである可能性が高い。強く右傾した S 字型のピッチパターンに関しては, L\*H のアクセントが置かれる *-nach-* の部分に現われていることがわかる。これを文字列で示せば次のようになる (句末音調は 0% のみを記すが, 上述のように H% もありうる)。

{An einem Dienstagnachmittag}  
%L      H\*L    L\*H    0%

次に, 後続のイントネーション句 {ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm} におけるピッチ曲線を観察する。ここでも, 女性のドイツ語母語話者15名のうち, 12名の発話がきわめてよく似たピッチ曲線を示すことが確認された。残る3名の発話も類似する部分は多いが, 1名については句中の一カ所に休止を入れることにより句全体に対する各語の時間配分に狂いが生じ, 採用することができず, 残り2名については *zusammen* を平坦に実現している点

5) ドイツ語, 英語のイントネーション表記にも応用される (Peters 2014, 32)。

が他の12名と異なるため、採用しなかった。この後続するイントネーション句についても発話速度の違いによる時間長の不揃いを解消してピッチ曲線を重ね合わせて見るために、ging の [g] の開放の瞬間から zum の [t] の閉鎖の瞬間までを1として、[t] の閉鎖の瞬間から 0.73 進行した時点までのピッチ曲線を表示させた。よって図の左端が各話者の調音上の句頭の [g] の開放の瞬間に相当し、[t] の閉鎖の瞬間は図の右端から 73/173 の位置で一致している。この作図では [t] の閉鎖の瞬間後の部分を十分にとったため、図3左図とは異なり、すべてのピッチ曲線がもれなく表示されている。

図5はそのうちの1名が読み上げた同部分のピッチ曲線である。垂直線により *ging* | *Silke* | *mit* | *Viviane* | *zusammen* | *zum* | *Kurfürstendamm* | の境界を示す。上述の ToDI によってこの1名の音調を表記すれば、%L (句頭), L\*H (*SILke*), L\*H (*viviAne*), L\*H (*zuSAMmen*), H\*L (*KURfürstendamm*), L% (句末) となるものと思われる。先行するイントネーション句と同様、図4に示された女性12名による後続のイントネーション句におけるピッチ曲線もよく似通っており、これがやはりこの句を読み上げる際に最も高い頻度で用いられるイントネーションである可能性が高い。強く右傾したS字型のピッチパターンに関しては、L\*H のアクセントが置かれる *Sil-*, *-a-*, *-sam-* の部分に現われていることがわかる。これを文字列で示せば次のようになるだろう。

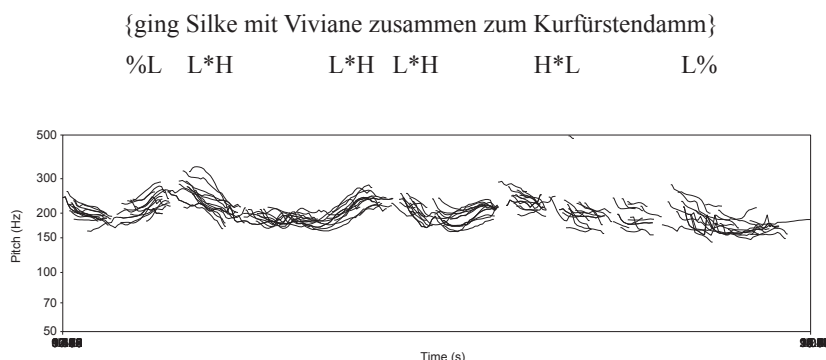


図4. ドイツ語を母語とする12名の女性話者が読み上げた文 *An einem Dienstagnachmittag ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* の文頭を除く部分 *ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* のピッチ曲線。

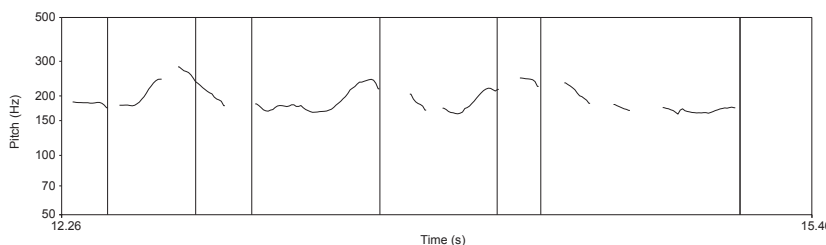


図5. 12名の女性話者の1名が読み上げた図4と同じ部分のピッチ曲線。垂直線により *ging* | *Silke* | *mit* | *Viviane* | *zusammen* | *zum* | *Kurfürstendamm* | の境界を示す。音調は L% (句頭), L\*H (*SILke*), L\*H (*viviAne*), L\*H (*zuSAMmen*), H\*L (*KURfürstendamm*), L% (句末) であると考えられる。L\*H のアクセントが置かれる音節の位置において強く右傾したS字型のピッチパターンが顕著である。なお、*zum* が高段にあるのはピッチピークの早まりによると思われる。



以上の二つのイントネーション句のピッチ曲線の観察結果から、この文のアクセント構成は次のように表記することができる。

{An einem Dienstagnachmittag} {ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm}  
 %L        H\*L    L\*H    0% %L   L\*H        L\*H   L\*H        H\*L        L%

このイントネーション表記と図3～5を再度対照させて見ると、L\*Hのアクセントが置かれる音節の位置と、強く右傾したS字型ピッチパターンが出現する位置とが概ね一致することから、L\*H、すなわち低上昇調アクセントが、Delattre (1965, 25-26) がドイツ語に典型的と呼んだピッチパターンの源であるといえる。

ここで、H\*Lも含めて上の文のアクセントが持つ意味を考えてみたい。まず、先述のように、この文は二つのイントネーション句から成り立つと考えられる。{ }で括られた部分がそれぞれのイントネーション句である。イントネーション句中、アクセントを付与された最後の音節が核であるから (Peters 2014, 19)、先行するイントネーション句の核アクセントはL\*H、後続するイントネーション句の核アクセントはH\*Lである。核アクセントH\*Lは、それを付与された構成素が伝達する情報が後続の文脈や推定しうる事情とは関係なしに有意であることを示すのに対し、核アクセントL\*Hは逆にそれらの文脈や事情への依存の下で有意であることを示す (Peters 2014, 60)。このことを上記の文に当てはめると、-nachmittagは、聞き手が有する一日の時間区分の知識に依存して理解される情報であるからL\*Hが付与される一方、Kurfürstendammは予見不能かつ後続の文脈にも依存しない情報であるからH\*Lが付与されると考えられる。前核部においては、アクセントH\*Lは、それを付与された構成素がすでに言及されたものでも、言語的文脈や状況的文脈、常識から推定可能なものでもないことを示すのに対し、L\*Hはその逆で、すでに言及されたもの、言語的文脈や状況的文脈、常識から推定可能であるものに用いられる (Peters 2014, 68-69)。これを上記の文に当てはめるならば、Dienstag- は初めて言及されることであり、文脈や常識から推定できないものであるためにH\*Lが付与され、Silke, Vivianeは名前と呼ばれ、聞き手もすでに知っていることを前提として導入された人物であるためにL\*Hを付与され、zusammenは文脈から推定しうるために同じくL\*Hを付与されたとみることができる。

今回、音声提供を受けたドイツ語母語話者20名から、分析対象に含めなかった男性話者5名を除く女性話者15名のうち12名がほぼ同じようなイントネーションでこの文を読み上げたということは、母語話者であれば、どのような条件下でどのようなイントネーションを付けるかについて共通する知識を有しており、そのことがドイツ語に典型的と言われるピッチパターンの産出につながったといえよう。

## 5. 日本人ドイツ語上級者との比較

最後に、同じ文を日本人ドイツ語上級者が読み上げた場合にどのようなイントネーションが現れるかを見てみたい。音声提供者が4名と少数であるため、個別に見ていくこととする。4名の音声提供者をここでは便宜的にA, B, C, Dと名付ける。上述のとおり、いずれもドイツ語学文学を専攻し、大学におけるドイツ語教育、ドイツ語学文学教育を担当する教員で、A,

Bは女性, C, Dは男性である。先行するイントネーション句のピッチ曲線を図6と図7に, 後続するイントネーション句のピッチ曲線を図8~11に示す。

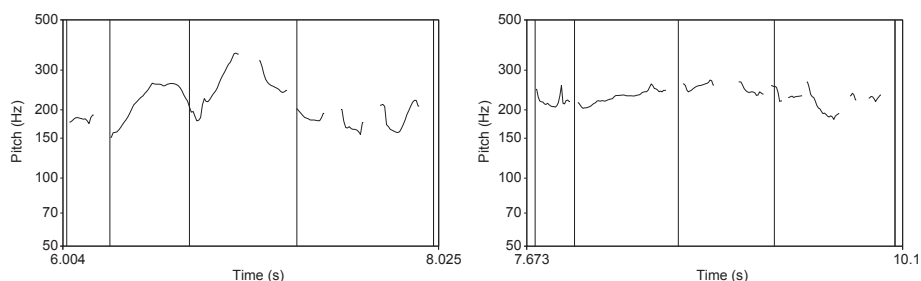


図6. 日本人ドイツ語上級者 A, B (ともに女性) の読み上げ文における *An einem Dienstag-nachmittag* のピッチ曲線。垂直線により | *an* | *einem* | *Dienstag-* | *-nachmittag* | の境界を示す。A (左図) のピッチ曲線は起伏に富み, *DIENStag-* におけるアクセントは母語話者と同じく H\*L であると見なすことができるが, *Einem* にも H\*L のアクセントが置かれる点, *-NACHmittag* に核アクセントが置かれない点が母語話者と異なる。句末には 0% ではなく H% を採用しているとみられる。B (右図) のピッチ曲線は起伏が少ない。

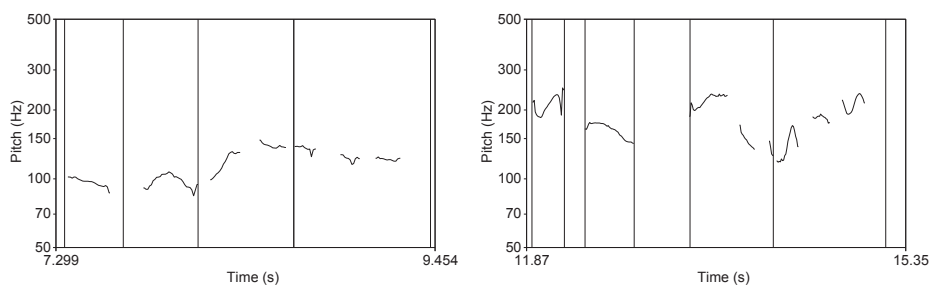


図7. 日本人ドイツ語上級者 C, D (ともに男性) の読み上げ文における *An einem Dienstag-nachmittag* のピッチ曲線。垂直線により | *an* | *einem* | *Dienstag-* | *-nachmittag* | の境界を示す (ただし, 右図の空白部分は休止区間)。C (左図) の *DIENStag-* におけるアクセントは母語話者とは異なり, 下降を伴わない H\* であるように見える。D (右図) は *DIENStag-* 及び *-NACHmittag* におけるアクセントに母語話者と同じ H\*L, L\*H を用いている。ただし, 句頭に %H を用いている点が母語話者と異なる。

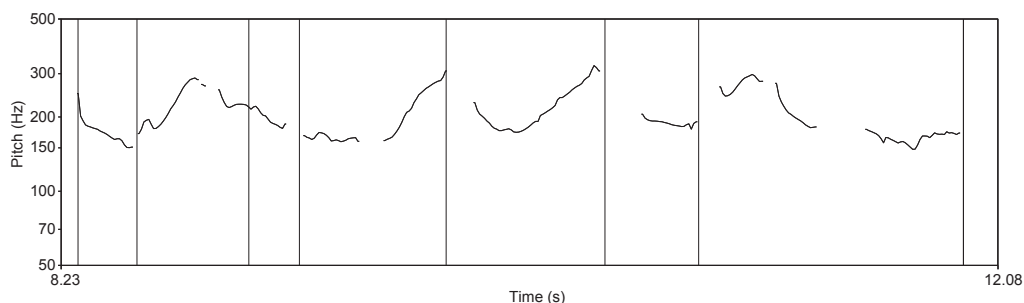


図8. 日本人ドイツ語上級者Aの読み上げ文における *ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* のピッチ曲線。垂直線により | *ging* | *Silke* | *mit* | *Viviane* | *zusammen* | *zum* | *Kurfürstendamm* | の境界を示す (以下同様)。母語話者と同じく *SILke, viviAne, zuSAMmen* に L\*H が用いられ, 右傾した S 字型のピッチパターンが現われている。*KURfürstendamm* に H\*L が用いられるのも母語話者と同じであるが, *zum* が低く現われる点が母語話者と異なる。



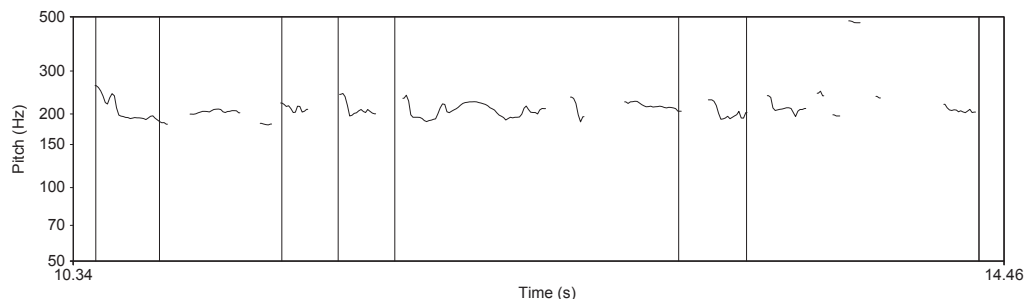


図9. 日本人ドイツ語上級者Bの読み上げ文における *ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* のピッチ曲線。文前半と同様、この話者の読み上げ文には起伏が少ない。

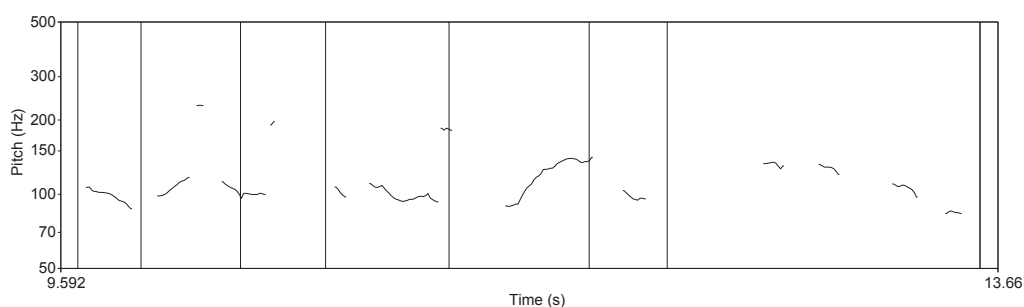


図10. 日本人ドイツ語上級者Cの読み上げ文における *ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* のピッチ曲線。*SILke* と *zuSAMmen* に母語話者と同じく L\*H が用いられ、強く右傾した S 字型のピッチパターンが現われているが、*viviAne* にはアクセントがない。*KURfürstendamm* に H\*L が用いられるのも母語話者と同じであるが、A と同様に *zum* が低く現われる点が母語話者と異なる。

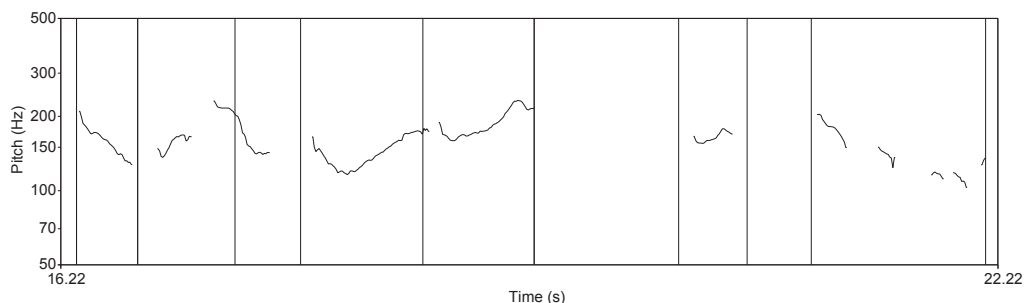


図11. 日本人ドイツ語上級者Dの読み上げ文における *ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm* のピッチ曲線。空白部分は休止区間である。*SILke*, *viviAne*, *zuSAMmen* に母語話者と同じく L\*H が用いられ、強く右傾した S 字型のピッチ曲線が現われている。*KURfürstendamm* に H\*L が用いられるのも母語話者と同じである。*zum* でピッチはやや低下しているが、A, C のような低さにはない。

A (図6左図と図8) のピッチ曲線は起伏に富んでいる。母語話者と同じく *DIENStag*-, *KURfürstendamm* には H\*L, *SILke*, *viviAne*, *zuSAMmen* には L\*H が用いられ、L\*H のアクセントが置かれる位置に右傾した S 字型のピッチパターンが現われている。しかし、*Elnem* にも H\*L のアクセントが置かれる点、*-NACHmittag* に核アクセントが置かれない点が母語話者と異

なる。句末には0%でなくH%を用いていると思われる。zumが低く現われる点は母語話者と異なる。また、聴覚印象としては、やや誇張が過ぎる感がある。

これとは対称的に、B(図6右図と図9)のピッチ曲線は起伏が少ない。

C(図7左図と図10)のDIENStag-におけるアクセントは母語話者とは異なり、下降を伴わないH\*であるように見える。SILkeとzuSAMmenに母語話者と同じくL\*Hが用いられ、強く右傾したS字型のピッチ曲線が現われているが、viviAneにはアクセントがない。zum KURfürstendammではAと同様にzumが低く現われるが、KURfürstendammには母語話者と同じくH\*Lが付与されている。

D(図7右図と図11)はDIENStag-及び-NACHmittagにおけるアクセントとして母語話者と同じH\*L, L\*Hを用いている。ただし、句頭に%Hを用いている点が母語話者とは異なる。後続のイントネーション句では、SILke, viviAne, zuSAMmenに母語話者と同じくL\*Hが用いられ、強く右傾したS字型のピッチ曲線が現われている。KURfürstendammにH\*Lが用いられるのも母語話者と同じである。zumでピッチはやや低下しているが、A, Cのような低さにはない。

総じて、A, C, Dは、かなり母語話者に近いイントネーションを習得しているといえるが、ドイツ語上級者であっても母語話者とは異なるいくつかの特異なピッチパターンが生じていることが確認できる。また、Bのように、ピッチ変化が非常に少ない話し手もあることがわかる。ピッチ曲線の観察と聴覚印象から、Dのイントネーションが最もドイツ語母語話者に近いと筆者は判断するが、それはDが滞独経験、ドイツ語使用経験ともに、他の3名より格段に長いことも影響していると考えられる<sup>6)</sup>。

## 6. まとめと展望

本稿は、50年ほど前に報告されたドイツ語イントネーションに典型的とされる強く右傾したS字型ピッチパターンの出現を確認し(Delattre 1965, 25-26 参照)、それを生ぜしめるアクセントを見出すとともに、その意味を解釈した。分析した文におけるアクセント構成を再掲すると次のとおりである。

{An einem Dienstagnachmittag} {ging Silke mit Viviane zusammen zum Kurfürstendamm}  
 %L        H\*L    L\*H    0% %L   L\*H        L\*H   L\*H        H\*L        L%

この文の句境界を除く六つのアクセントのうち、四つがL\*Hであることから、このアクセントがドイツ語に頻出するものであることが窺われる。今回、分析の対象としたのは、一定の長さを持つテキストの朗読音声の冒頭の一文に過ぎない。今後、朗読音声のさらに多くの文におけるイントネーションを解析することにより、本論で得られた仮説を検証し、ドイツ語イントネーションにおける典型的ピッチパターンの姿をより明確に描き出すことを目指す。その上

6) 本研究の日本人ドイツ語上級者の音声提供者が少数であり、個人が特定される恐れがあるため、音声提供者に関するその他の情報の記載は差し控えた。

で、図12 (下段) に掲げる Markus Rude 提唱の Prosodische Schrift により (Rude 2014)<sup>7)</sup>、ドイツ語に典型的と考えられるイントネーションのひな形を、ドイツ語教育における韻律指導に生かせる形で示すことをさらなる目標とする。

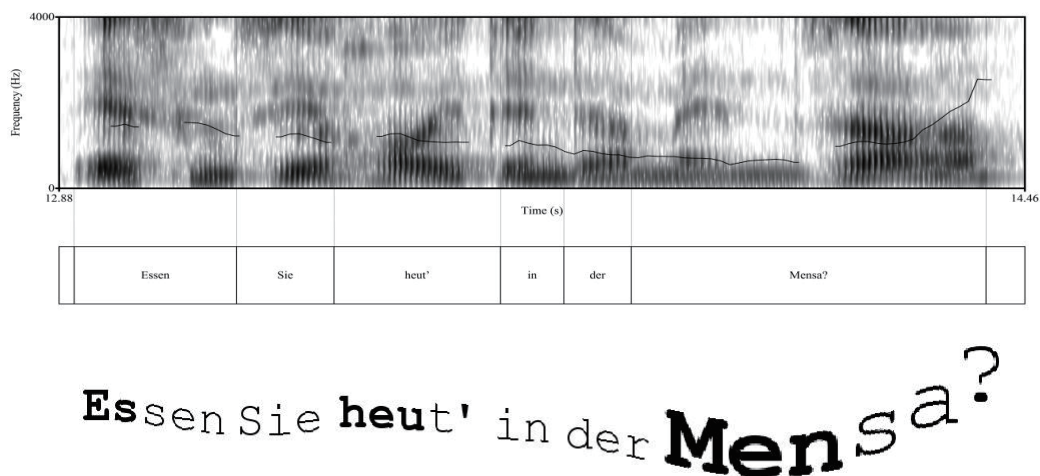


図12. 上段にはドイツ語母語話者の発音による文 *Essen Sie heut' in der Mensa?* のサウンドスペクトログラムにピッチ曲線を重ねた図を示し、その下に語境界表記を添える。下段には同じ文の文字表記に重ねて韻律を表す手法 (Prosodische Schrift: 文字表記を部分的に拡大縮小, 上下に湾曲, 左右に伸縮させ, 強さ, 高さ, 長さを表す) を示す。

## 参考文献

- 成田克史 (2005) 『答えはドイツ語』 同学社.
- 成田克史 (2007) 「ドイツ語話者と日本語話者によるドイツ語読み上げ文におけるイントネーションの特徴」『音声研究』 第11巻第2号, pp. 40-54.
- Delattre, Pierre (1965) *Comparing the Phonetic Features of English, French, German and Spanish. An Interim Report*. Heidelberg: Groos.
- Féry, Caroline (1988) Rhythmische und tonale Struktur der Intonationsphrase. – In: H. Altmann (ed.) *Intonationsforschungen*. Tübingen: Niemeyer, pp. 41-64.
- Kohler, Klaus J. (2005): Timing and communicative functions of pitch contours. – In: *Phonetica* 62 (2-4). ([http://www.ipds.uni-kiel.de/kjk/pub\\_exx/kk2005\\_2/phonetica.pdf](http://www.ipds.uni-kiel.de/kjk/pub_exx/kk2005_2/phonetica.pdf), pp. 1-22)
- Peters, Jörg (2014) *Intonation*. (= Kurze Einführungen in die germanistische Linguistik, Bd 16. (Hrsg. von Jörg Meibauer u. Markus Steinbach). Heidelberg: Winter.
- Rude, Markus (2014) Prosodische Schrift zur Ausspracheschulung: Erfahrungen und Konsequenzen aus dem Unterrichtseinsatz an einer japanischen Universität. – In: *Studien zur deutschen Literatur und Sprache* 46, pp. 43-58.

7) 文の文字表記自体を部分的に拡大縮小, 上下に湾曲, 左右に伸縮させ, 強さ, 高さ, 長さを表す手法。文字表記とそれに追加した矢印等の記号を見比べるよりも直接的, 直感的に韻律が把握できることが期待される。